GNSS自動操舵収穫および株出管理同時作業

今製糖期の終了間際に、収穫作業とそれを追いかける形で実施された株出管理作業の調査を行った。同時作業は収穫が終わると次の製糖期まで見られないので3／30という年度末ぎりぎりの調査となった。使用農機はUFSMAプロジェクトで導入されたGNSS自動操舵機器を搭載した大型ハーベスタ（YT8000）および株揃え総合管理機を装着した大型トラクタ（T5713）である。
以前に収穫され株出に移行している境界線から3畦以外はGNSS自動操舵で収穫を行った。午後から大型トラクタを自動操舵で運転して株揃え作業を行った（午前中は試行のみ）。
同時作業の自動操舵は本邦発のケースである。世界的にも珍しい（世界初？）風景である。

調査圃場は写真の奥に向かって緩やかな登り。
また、奥の圃場端（枕地）は右に向けて高くなっている。

GNSS自動操舵トラクタ　　GNSS自動操舵ハーベスタ

調査圃場：万座毛南畑
作型：春植
品種：Ni27
作業歴：植付け前にGNSS自動操舵線引き

GNSS自動操舵ハーベスタおよび株出管理機

収穫と株出管理の同時作業の風景

株出管理におけるGNSS自動操舵の効果

収穫後の圃場面：轍はきれいに残っているがその中央に切り株があるとは限らない（上）。
切り株列の中央をきれいに作業している様子。

管理機が走行した後の様子（上）。
管理機の中央部に肥料などが散布されている。
切り株がずれているケースもある（下）。

この圃場は自動操舵線引きは行ったが、植付けは手動のため、一部でずれが発生しているようだ。

同時作業の動画

さとうきびが直立しているので収穫しやすいかと思ったが、オペレータの話では、目線より高くて先が見えないので逆とのこと。自動操舵では先が見えなくても直進するので便利。